

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/08/07 ～2019/08/31)

1. 勉学の状況

8月12日月曜日から新学期が始まり、同時に授業も開始されました。しかし、留学生のオリエンテーションが新学期開始前に無かったので、月曜日の授業を取るようにはしていた学生は何も分からないまま教室に向かわなければなりません。キャンパスごとの留学生オリエンテーションは13日にあり、そして留学生はオリエンテーションを優先しなければならなかったため、火曜日の午前中の授業に出ることができませんでした。15日には留学生全体のオリエンテーションがあったため、同様に木曜日の授業を諦めなければいけませんでした。最初の授業に出ることが出来なかったのに関わらず、授業の登録期間が初めの一週間に限られていたので、履修する授業にかなり悩んだし、大変でした。

私はグアダラハラ大学のCUCSHという人文科学系のキャンパスの、Letras Hispánicasという言語や文学を中心とした科に所属しており、すべての授業はスペイン語で行われています。初めに学科の授業に出席してみましたが、スペイン語のスピードについていけず、また1つの授業が3時間と長いので、内容を理解するのに苦しみました。授業中、学生の発言が多く意見交換が盛んなため、その会話を聞きとることが難しく、取り残されたような、授業に参加できていない気分でした。留学前までは学科の授業をのみを取るようには考えていましたが、スペイン語に不安が残るため1学期は留学生向けのスペイン語の授業をメインにすることにしました。スペイン語の授業を3つと、キャンパス内に一般の授業とは別に授業料を払って受講できるスペイン語の授業があったので、それに申し込みました。スペイン語の授業は一から文法を学ぶ授業ではなく、テーマから文を構成したり生徒同士で会話したり、どの授業も学生の発言の場が多い授業で、とても楽しく受講しています。また、私の履修している授業は多くても10人程度しか学生がいないので、少人数であるのも良いです。教授が、私があまり理解できていないのを見て、助け合いましょうと言ってくれたり、他の学生が連絡先を交換してくれて、わからないことは何でも聞いてと言ってくれたり、周囲の人たちの優しさにとっても助けられています。しかし、開始時間ちょうどに授業が始まることはほとんどないし、授業中にサンドイッチやお菓子、フルーツなどを取り出して食べ始めたり、椅子に足を乗っけていたり、そして誰もそれを気にしていない自由に開かれた授業スタイルにはいつも驚かされています。

2. 生活の状況

メキシコのグアダラハラには8月7日に到着しました。私はホームステイで、ご夫婦と娘さんともう一人ホームステイしている女の子がいて、一軒家の一室が私の部屋になりました。ホームステイですが食事はついていないので、朝昼夜のご飯は自分で調達することになっています。家

から学校まではバスで10～15分ほどで、家の周りは住宅街なので夜も静かで過ごしやすいです。歩いて15分ほどのところにショッピングモールとスーパーがあってなんでも揃うので生活面で特に困ったことはないです。遠くの移動手段はバスを使っているのですが、日本と違って、どんなに遠くまで行っても1乗車7ペソ（日本円で約40円）しかかからないし、学生は前売りの学生チケットを買えばその半額で乗ることができるのでとても便利です。しかし、メキシコはいろんな行き先のバスが走っているので、バス停で待っているだけでは止まらず、自分の目当てのバスがきたら手を挙げて止まってもらわなければいけません。あとかなり揺れが激しいです。しっかりつかんでいないとこけてしまいます。

メキシコは今雨季なので、一日のうちどこかでもものすごい量の雨が降ります。1度降り始めると1時間ほど降りやまず、その1時間で道が川のようになります。運よく外で雨に降られたことはあまりないのですが、いつも折りたたみ傘を持ち歩いています。雷の音もすごいので雷が苦手な人は怖いだろうなあと思っています。

他の留学生や現地の学生と知り合うことができ、毎週のようにいろんなところへ誘ってくれるのでとても楽しいです。自分の言いたいことをうまく伝えられずもどかしい気持ちになることがあるので、スペイン語でもっとうまく会話ができるように頑張りたいです。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/09/01 ~2019/12/31)

1. 勉学の状況

履修登録に苦労した結果、最終的に月曜日から木曜日は授業、金曜日は授業がない時間割になりました。留学生向けのスペイン語の授業の Idioma 1、Idioma 2、Idioma 3 と、通常の授業とは別の、校内で行われるスペイン語の補講授業を受けました。Idioma 1 は、メキシコの独立記念日や死者の日などの記念日が近くなるとそのことについての文章を読んだりアクティビティを行ったり、メキシコ文化についてよく知ることができる授業でした。教授が明るい方で、授業中は発言しやすい雰囲気でした。受講している日本人留学生も多かったのでわからなかった時は助け合うことができたし、授業終わりに一緒に昼ご飯を食べに行けたりできて楽しかったです。Idioma 2 は、他の Idioma の授業に比べて文法中心的な授業でした。メキシコの食卓に欠かせないトウモロコシの文章やメキシコの神の神話の文章など、単語や動詞の活用を確認しながら読み進めました。また、独立記念日の後の授業では連休中の出来事を書いて発表したり、スペイン語の単語のゲームで遊んだりもしました。Idioma 3 は、他の Idioma が割とにぎやかな雰囲気だったのに比べて、真面目に授業が進められたように感じます。文章読解が中心で、文章の内容を要約したり自分の意見を書いたり、スペイン語を読んで書くことが多かったです。生徒数が4人だったので、わからないときは教授がわかるまで説明してくれました。最終課題は Idioma 1 と 2 はテスト、3 はレポートでした。テストといっても授業から同じ問題が出されるわけではなかったので、これといってテスト勉強は必要ありませんでした。全ての授業に共通していたことは、時間の緩さです。授業開始時間行っても教授が来ず授業が始まらないので、2~30分の遅れは日常的でした。1回の授業時間は3時間の設定でしたが、3時間いっぱい授業することもそんなになく1時間半ほどで終わることもありました。メキシコっぽいなぁと覚えることのひとつです。Idioma とは別のスペイン語の授業は志望者がお金を払って受ける授業だったのですが、日本人は私だけでした。テキストを使って授業が進められて、テキストの内容に沿った問題を解いたり、例文を書いたりすることが多かったのですが、少しレベルの高い文法の授業だと感じました。1か月に1回ほどレポート課題を出されたり、みんなの前で自分の与えられたテーマについて発表したりもしました。私はメキシコと日本の常識の違いがテーマだったので、日本には玄関で靴を脱ぐことや食事の前の挨拶があることを発表しました。志望者が集まった授業だったので、普段の授業とは違う学科の人たちと友達になれたので嬉しかったです。今学期はスペイン語に慣れる程度理解できるようになることが目標だったので、来学期は専門的な授業についていけるように頑張りたいです。

2. 生活の状況

メキシコでの生活が約5か月となりましたが、幸い特に困ったことはありません。しいて言うならば、気軽に歩いていけるところがコンビニがなく家の近くに住んでいる友達もいないので、何も予定がない日は家に引きこもりがちになってしまうところです。元々家にいることが好きなのですが、積極的に外に出るようにしようと思います。

私の家は、食事付きではないホームステイなので自分でご飯を用意する必要があるのですが、真向いに住んでいるメキシコ人のおばあさんが、ご飯が食べたかったらいつでもおいでと言ってくれているのでよくお世話になっています。おいしいメキシコの家料理を食べることができるし、少し破天荒なおばあさんと話す時間も楽しいです。おばあさんの家にも1人日本人留学生がホームステイしていて、おばあさんとその子と私とでおばあさんの故郷へ出かけたり、親戚の誕生日会に参加させてもらえたり、おばあさんの存在がとてもありがたい存在です。私のホストファミリーとも映画を見に行ったり、孫たちと遊んだり、クリスマスには家に家族が集まって一緒にご飯を食べてプレゼントをくれたり、とても良い関係だと思っています。

また、メキシコにある日本語学校でボランティアをしています。日本人の友達の紹介で、その日本語学校の会話セッションという時間に日本語を学ぶ生徒たちと日本語とスペイン語を交えながら会話しています。積極的にスペイン語を使って話せる時間が取れるし、生徒の方々と友達になれるし、会話セッションの後その日本語学校でご飯（主に日本食）が頂けるので週に1回は行くようにしています。

旅行にも何度か行きました。9月のメキシコの独立記念日、11月の死者の日には、移動、宿泊先、観光を全てまとめてくれた大学のチューターが企画する旅行があったので、その旅行に参加しました。メキシコ国内でも有名な観光地を巡ることができ、旅行中に他の国の留学生と友達になれたり、メキシコの文化に触れることができ忘れられない思い出になりました。他には、メキシコに来てから初めてメキシコを出てアメリカへ行ったり、12月にはカンクンに旅行に行きました。カンクン旅行では世界遺産のチチェンイツァ遺跡や有名な島やセノーテを巡りとても充実した旅行となりました。ですが、旅行からグアダハラに帰ってくると何となく安心感や心地よさを感じるので、私の中でグアダハラはもう自分の故郷のように感じているのかもしれない。

メキシコでの留学生活も折り返しとなりましたが、残りの期間後悔のないように過ごしていきたいと思っています。また、私の学科には3年次論文があるので、冬休み期間も気を引き締めて取り組んでいこうと思います。

チチェンイツァ遺跡



独立記念日の様子



死者の日の様子



海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2020/01/01 ～2020/05/31)

1. 勉学の状況

冬休みを終え、1月中旬に後期が始まりました。前期の時と同様、履修登録期間は1週間と短くシラバスもないため、初めの授業を逃すとどんな授業が分からないようになってしまいました。履修しようかと考えていた授業があったのですが、ネットに書かれていた教室と実際に授業が行われている教室が違っていただけで、友達に聞いたり事務に聞きに行ったりしたのですが、結局どこか分からずその授業の履修を諦めました。もし、今後グアダラハラ大学に留学する学生がいたら、履修登録の大変さを伝えたいと思います。結果的に、留学生のためのスペイン語の授業を1つ、学科の授業を1つと、自分のキャンパス(CUCSH)ではなく他のキャンパス(CUCEA)で現地の学生と一緒に受ける韓国語の授業の3つ履修しました。元々、韓国語に興味がありK-POPが好きだったのと、韓国語の授業を受ける学生は同じ趣味を持つ学生が多いだろうと思ったので、韓国語の授業を履修しました。スペイン語で韓国語の授業を受ける気分は少し変な気分でしたが、思った通り同じ趣味を持つ学生がほとんどだったので、授業中にアイドルのMVを見たりして楽しかったです。スペイン語の授業は前期と同じ先生だったので、緊張せずに受けることができました。学科の授業は、スペイン語の文法をさらに詳しく学ぶ授業で、日本では日本語で文法の学習をしたので、現地の学生とスペイン語でスペイン語の文法を学ぶのは面白かったです。同じ学科内に私以外に日本人の留学生はいなかったので、助け合える友人がおらず、どの授業を受けるにしても不安が大きかったのですが、この授業には韓国からの留学生がおり、留学生同士すぐに仲良くなりました。

ですが、3月にメキシコでコロナウイルス感染者が出たことで、グアダラハラに感染者が出ていませんでしたが、3月中旬から大学は休校になり、すぐにオンライン授業に切り替わりました。授業の進め方はそれぞれで、学科の授業は課題提出、韓国語の授業はzoom、スペイン語の授業はSkypeで進められることになりました。ですが、日本へ帰国することになり、日本帰国後は実家でグアダラハラ大学のオンライン授業を受けることにしましたが、日本とメキシコは時差が14時間あり、授業が日本の深夜に行われることもあったので、続行が困難な授業も出てきました。最後まで授業が受けられなかったことが残念だし、不完全燃焼で終わってしまった気分です。

2. 生活の状況

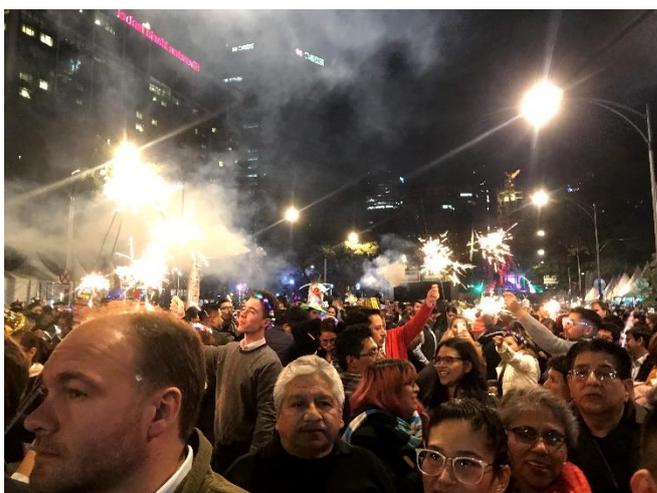
当初は6月までメキシコに滞在する予定でしたが、コロナウイルスの影響で4月に入ってすぐ日本へ帰国することになり、残り5か月だと思っていた留学が急遽3か月で終わってしまい

ました。3月にメキシコで初めて感染者が出たときは、自分が留学を引き上げて帰国するとは全く考えていなかったもので、4月の2週間の休暇中にどこへ旅行に行くかを友達と話して飛行機のチケットも購入していました。ですが、状況は1日ごとにどんどん変化し、3月中旬には大学が休校になりました。万が一に備えてスーパーに買いだめに行った時は、マスクをしている人はまだらでしたが、どこにもマスクは売り切れで入手困難でした。私は日本からマスクをたまたま持ってきていたのでマスクに困ることはありませんでしたが、インターネットでは高値でマスクが売られていました。グアダラハラで感染者が確認されてからは、ホストファミリーに家から出ないように言われ、ずっと家の中で過ごしていました。一時はグアダラハラで外出規制も出ていました。外出規制が解かれた後も、友達に会うこともできず、買い物にも行けず、ほぼ毎日袋ラーメンかふりかけご飯を食べていました。4月に帰国することが決まってから、お世話になった向かいの家のカルメンおばあさんとおばあさんの親戚の人たちに挨拶したく、ただ1度、親戚の家へ食事をごちそうになりに出かけたら、外出中にホストファミリーから電話がかかり、外出した人を家へ上げることができないと言われました。その時はどうなるかと思いましたが、カルメンおばあさんがうちに来れば良いと言ってくれたので、すべての荷物をカルメンおばあさんの家に移し、帰国までの最後の1週間はカルメンおばあさんの家で過ごしました。家が元の家の真向いだったので移動も大変ではなかったし、食事も出してくれて、カルメンおばあさんにはとても感謝しています。外出した自分が悪かったですが、最後の思い出ができて良かったです。

1～2月、3月の初旬まではコロナウイルスの影響がほとんどなかったので、友達とお出かけしたり、旅行を楽しむことができました。年末は友達とメキシコシティに行き、広場で大勢の人たちと新年を迎えました。その旅行で、私が人生で一度はやりたいと思っていたスカイダイビングをしに行きました。ずっとやってみたいと思っていたのでメキシコで念願が叶って最高でした。1月中には3年次論文を提出しなければならなかったもので、残りの冬休みは3年次論文に費やしました。また、1月と2月に私が好きなK-POPのアイドルのコンサートがメキシコシティで行われたので、一人でコンサートを見に行ったりもしました。いつもは日本や韓国のコンサートに行くので、また違う国でのコンサートはとても新鮮で楽しかったです。

ただ、3月に入り、コロナウイルス感染者が出始めると、街中で人々の視線をよく感じるようになりました。私は言われませんが韓国人や日本人の友達の中には街で罵声を浴びせられたり、そばを通る時に口を覆うようなしぐさをされたり、悲しかったり悔しかったりする経験もしました。言い返す気はなかったので無視していましたが、メキシコだけでなく他の国にいた留学生もそういう経験をしたのではないかと思います。

予想外の状況となり、当然予定していた旅行はできず飛行機チケットは無駄になったし、帰国便が急に変更されて違うチケットを買い直したりして、留学期間で1番お金を使った気がします。3月の初めは帰国することになるとは思いもしなかったのが、結局帰国することになりましたが、いつかまたメキシコに行けることを強く願っています。



メキシコシティでの
カウントダウンの様子

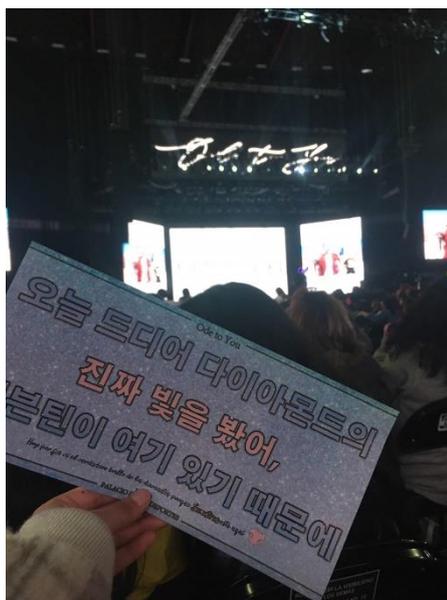
スカイダイビング



グアダラハラ創立記念日のお祭り

メキシコでも流行っていた
パラサイトを3回見ました





コンサートに行った時の様子

メキシコではスマホでの写真撮影はコンサート中も許可されていた



メキシコでの最後の旅行先で何万匹の蝶を見に行きました